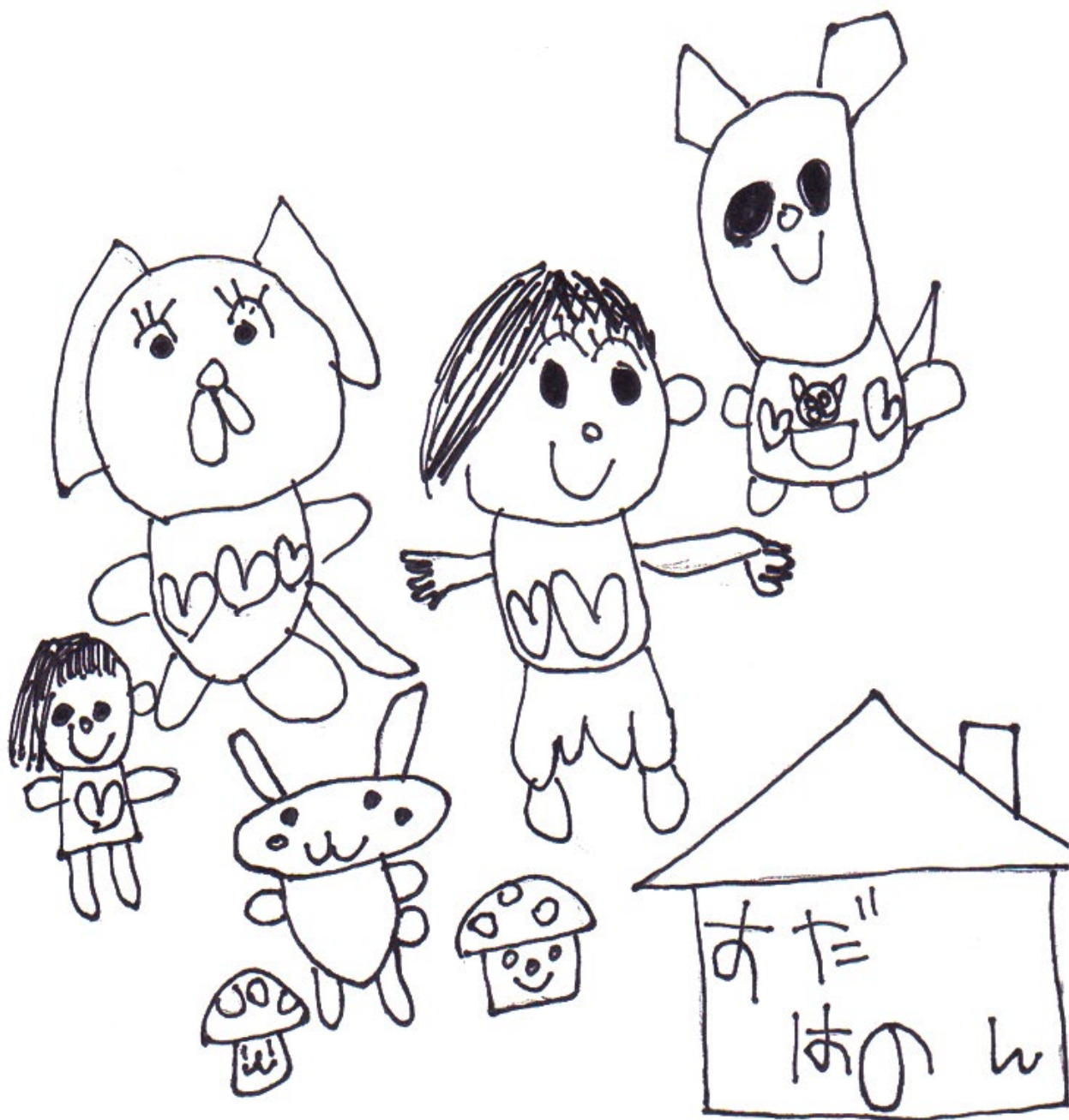


# とよたち

美肌通信 11月号

vol. 124



# November

今月号のとよたち美肌通信の表紙は、  
絵をかいてくれた女の子と、その子のお姉ちゃん  
が、かわいいワンちゃん、ウサちゃん、カンガルー親子と  
楽しそうにパーティーをしている絵です。  
かくれんぼやおにぎっこをやる事が好きで、  
てっぼうやおえかきが得意な女の子が  
かいてくださいました。😊

ありがとうございます！

院長はじめ スタッフ一同

バリエリ 感謝いたします。



幕末の名君と言われた松平春嶽の書、「偶作」  
における冒頭に「我に才略無く我に奇無し  
常に衆言しかうけを聴きて宜しき所に従ふ」とい  
言葉があります。訳はこうである。私には  
才覚もなければ奇策もない。だから常に皆  
の意見に耳を傾けて適切と思うことに  
従っているという事です。

よく一年位同じ仕事をしただけで、もしくは  
数ヶ月のキャリアですらその領域のベテランを気取  
ることが昨今では多い様な感があります。  
ましてや数年ともなればもう一人前で世の中の  
こと全てが分かったと思いたくなるのも今の日本  
では無理もないことかも知れません。しかし周囲  
を改めて見渡せば、自分の何十倍もの辛酸を  
嘗め、艱難辛苦を乗り越えている人が大勢  
いることを忘れてはいけません。

似た話で人は年齢・経験・性別や社会的地位でも一人前ぶることがあります。しかし、「ぶる」よりも「らしく」する方がその人の量や質を上げる人間修業になると私は思います。男ぶるのではなく男らしく、二十歳ぶるのではなく二十歳らしく、勉強中や修業中なら元々らしく、日本人らしくする事の方がなおさら良く美しいのではないのでしょうか。その基に存るのは感謝や恩を抱けるかだと思えます。この気持ちをお忘れず持っていられれば、「らしさ」が磨かれていくのではないのでしょうか。例えば自分の地位が上がったとしても、それは周りの支えがあったからこそなのです。

「私に当てはめてみれば、今日一日恙無く診療が終えられたという事は、職員全員が一所懸命に自分の持ち場で使命を全うしてくれたおかげであること。職員同士が連携を回し走り回ってくれたことに他ならない。この事に私は深謝しなければなりません。」

院長 拝